



天平のひろば

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）
〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

2025 年 10 月発行

96 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail npoheijyou@yahoo.co.jp
<http://www.heijyonet.nara.jp>

第一次大極殿院東楼が姿を現す ～素屋根が大極門(南門)を跨いで 83m 移動～

令和4年4月から復原工事を実施している東楼が姿を現しました。これまで素屋根の中で礎石、柱、屋根瓦、鴟尾などを素屋根内のクレーンにより施工していましたが、屋根上部までの施工完了に伴い素屋根を西側へ移動しました。

これにより大極門（南門）と東楼が並び、奈良時代当時の風景に一步近づきました。



左から大極門(南門)、東楼、第一次大極殿 (令和7年9月)

素屋根は高さ約 30m、幅約 50m、奥行き約 43m、重量約 665t あり、平成 29 年から実施した第一次大極殿院南門復原整備工事にて設置し、令和 3 年 9 月から 10 月初旬にかけて東方向へ 41.5m スライドしました。今回は、西方向へ大極門（南門）を跨いで 83m スライドさせる作業となります。

作業は 9 月 24 日、29 日の 2 日間で行い、9 月 24 日には現地にて作業説明会を開催しました。

見学会には約 100 名を超える多くの方々が集まり、国営歴史公園事務所の事業概要や、株式会社竹中工務店の現場担当者の解説に熱心に耳を傾けて頂き、たくさんのご質問がありました。



素屋根スライド作業説明会 (令和7年9月24日)

巨大な素屋根は水平油圧ジャッキ 6 台により 6 分ごとに 1m の速さでゆっくり慎重に移動され、予定通り 9 月 24 日 16 時頃に大極門（南門）地点へ、9 月 29 日 17 時頃に西楼建設予定地まで移動が完了しました。



スライド作業前 (令和7年9月19日)



スライド作業 1 日目終了時点 (令和7年9月24日)



スライド作業完了 (令和7年9月29日)

現場では、引き続き令和7年度末完成を目指して工事が続けます。平城宮往時の荘厳な景色に向けて前進できるよう、一丸となって事業を進めて参ります。

(飛鳥歴史公園事務所平城分室 追鳥裕樹)

あちこち見て歩き

⑩ 芭蕉の大和路(四)

元禄七年（1694）七月、芭蕉は3年ぶりに伊賀に帰郷。九月上旬、大坂の門人洒堂と之道の門戸争いの仲裁のため大坂へ行くことになった。ついては九月九日の重陽の節句を古都奈良で心ゆくまで味わいたいと前日八日に伊賀を出立し、夕方猿沢池の畔の宿に着いた。これが6回目の大和への旅である。体調がすぐれず宿で休んだ後、夜更けに池の畔で澄んだ月を望みながら鹿のしみじみと「あはれ」を感じさせる声を聞いて、

びいと啼く尻声悲し夜の鹿

の句を詠んだ。「びい」という擬音と「尻声」という俗語を使って、晩年主張していた「軽み」を実践しながら秋の情趣を表している。おそらく猿丸大夫の「奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の…」の歌が念頭にあったのではないだろうか。九日は朝から開眼供養のすんだ大仏と寺々を巡って、咲き誇る菊の花と香りを堪能し、

菊の香や奈良には古き仏達

の句を得た。「花」ではなく「香」とすることで仏のイメージを立たせ、奈良の仏達に永遠の命を与えている。この句には奈良の歴史や静けさに対する敬意と温かさが感じられる。

芭蕉自身意に叶った句のようで、



奈良称年寺「菊の香…」の句碑

自筆の菊の水墨画にこの句を賛した作を残している。句碑は寛政五年（1793）芭蕉百年忌に称念寺に建てられた。この日は大坂への途次、暗峠での句も含めて「菊の香」の句を3句も詠んでいて、古都の節句が強く印象に残ったことがうかがわれる。

しかし、大坂に行った芭蕉は病に倒れ、門人達の看病もむなしく、一ヶ月後の十月十二日帰らぬ人となってしまった。享年51。亡くなる4日前に

旅に病で夢は枯野をかけ廻る

と、なお断ちがたい俳諧への思いを詠んでいた。

芭蕉の大和路遍歴は、貞享期から元禄期の蕉風を形成する模索の過程にも当たっていた。大和各地の歴史的社寺や旧跡、山野の姿に古人の求めたものを感じ、古典詩歌や物語の中の人々の息づかいをも感得したに違いない。それらに触発されて名吟が生ま

れ、新たな詩想が育まれたのである。

実は大坂に行く前に次の大和路の旅も門人から誘われていたのであるが…。それが実現していたら、追求していた「軽み」や「不易流行」からどんな句が生まれていただろうか。（河野良子）

平城宮跡歴史文化講座(資料館講堂)

11月16日 渡辺晃弘（奈良大学教授）

「古代の對外戦争（その2）-対蝦夷戦争-」

2月15日 市 大樹（大阪大学大学院人文学教授）

「古代の對外戦争（その3）-白村江の戦い-」

2025 クリーンアップなら

10月26日、時雨のなかP0平城宮跡ほか地域住民は、奈良県一斉の清掃活動を実施しました。

また、綺麗になったみやと通りの溝から、空き缶やペットボトルを回収しました。（環境保全部会）

桜見守り隊

桜見守り隊は令和7年度10月で30回に及ぶ見守り活動を完了、第二次大極殿院クビアカツヤカミキリ虫の桜被害が拡大していることを奈良県緑化推進協議会等へ報告しました。（緑の保全部会）



第二次大極殿院東側の桜被害

平城京カルタで遊ぶ

奈良市へ寄贈の平城京カルタを楽しんでいる鶴舞バンビーホームを9月17日に訪ね、子どもら19名は4グループに分かれてゲームを楽しみました。



（文化・ガイド部会）

大好評 平城京 歴史講座

井上さやかさん（万葉文化館係長）が8月9日 97名を前に「宮都を詠むということ―飛鳥・藤原・平城―」と題し講演。



藤原京遷都後、距離的に近い明日香を心理的に遠く感じて、志貴皇子は虚しさや懐かしさを詠んだ。また山部赤人は柿本人麻呂の歌を踏襲し、対句を用いて景色のすばらしさを褒め称え、

明日香への思いは霧のようにずっと去らずにあると恋のような感懷を詠った。

藤原京の宮都とは大王の住まいである宮と、宮殿を中心とした都市空間の都(京)を合わせた概念である。この時代までは歌が天皇の権力を盤石にする役割を担っていたが、平城京に遷都すると歌の形式は残っても、内容は自分達がいかに苦勞して奈良の都を造ったかという思いや哀歎に重点が移っていった。恭仁京へ遷都後は、万代に栄えると思った奈良の都の荒廃した姿を見て、悲しみと嘆きが詠まれている。

このように宮都は政治の場であると共に、人々の生活の空間であり、宮都を詠むということは、そこで生活していた人々を慰め傷む鎮魂歌であったと言える。（編集部）

中東洋行さん（吉野歴史資料館学芸職員）が9月13日 146名を前に「壬申の乱拳兵の地 吉野宮を求めて」と題し講演。



吉野宮は多くの天皇が行幸し『古事記』『日本書紀』や『万葉集』にも出てくるが、平安時代になると次第に忘れられ場所も分からなくなる。平安末期になると壬申の乱拳兵の地として注目されるようになるが吉野山にあると思われていた。

江戸中期には国学者による万葉集の研究が進み吉野宮は川を詠んだ歌が多く、川が近くにあったという主張が出てきた。本居宣長は吉野町宮滝を訪れ行宮の可能性を記した。地元有力者たちによって川

上村大滝や下市町秋津を主張する説もあった。明治になると吉田東伍の研究で宮滝が有力になり、昭和になると東吉野村小村や大淀町比曽も加わる。

特に昭和初期に中岡清一の宮滝説と丹生川上神社宮司の森口奈良吉の説が激しく論争した。両氏が亡くなった後に、末永雅雄は壬申の乱の行程の確認や宮滝に苑池や敷石が発掘され飛鳥板蓋宮伝承地との関連を調べ、平成になり宮滝の結論に至った。苑池跡は斉明天皇、史跡公園は聖武天皇の離宮跡と位置付けられた。（編集部）

佐々田悠さん（正倉院事務所保存室長）が、10月11日 127名を前に、「正倉院宝物の世界 - 最近の研究成果から」と題し講演。



正倉院宝物は北倉に聖武天皇ゆかりの品々、中倉は開眼会などで皇族などが捧げた色麻紙や筆など造東大寺関係品、南倉には聖武天皇一周忌で使用された大幡や伎楽面、楽舞衣装など、

東大寺の資材、什物を収納。現在は全て新しく造られた東西の宝庫に納められている。

宝物 9000 点の中で輸入品は全体の 5%にすぎず、宝物を舶載品、日本製、新羅物という視点から世界性を考えてみる。北倉の鏡は化学組成から中国製とされ、朝貢に対す回賜とすると、当時の政治的な国際関係がわかる。日本製の宝物は、材料や技法、意匠の点で唐の基準に影響され、粉地彩絵八角几など^{ふんじさいえのはっかくぎ}、^{うんげんさいしき}暈繡彩色の規範を再現した代表例である。唐の規範に従うことが優先され、「唐の世界性」が表れている。新羅物は遣唐使が途絶えた際、新羅から仏具や香藥、墨などを輸入した物で、木画紫檀碁局などがある。宝物は素材やデザインに異なる特徴があって、その国際性や多様性が見受けられる。（編集部）

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

11月8日：立石堅志（奈良市主任学芸員）

「古代国家と射礼（じやらい）」

12月13日：横山 舜（奈文研建造物遺構研究室 AF）

「近世京都の寺院造営と奈良の古代寺院」

1月10日：木原明彦（奈文研解説ボランティア）

「復原模型でみる東大寺大仏殿のしくみ」



1969 年大阪府大阪市生まれ。1993 年 3 月に大阪大学文学部卒業、1996 年同大学院修士課程修了、同年 4 月奈文研採用、都城発掘調査

部平城地区、同飛鳥・藤原地区を経て、2020 年同副部長、2023 年から現職に就き現在に至っています。

その間 2004 年から 6 年間文化庁に出向し研究を離れましたが、全国の文化財保存に尽力し、福岡県八女市岩戸山古墳近くの鶴見山古墳の発掘調査で、石人が出土したことが印象に残るとのことです。

長年続けている瓦の研究では近年、瓦の考古学的分析と、理化学的な胎土分析を総合的に行うことによって、瓦がどこで作られたか生産地を明らかにする研究を行っているそうです。

現在整備が進んでいる、平城宮第一次大極殿院の西楼の発掘調査を担当した際には、大きな柱穴がたくさん並んで見つかり、一番印象に残っているということです。東西楼は『続日本紀』に聖武天皇が、宴会を催したことが記されている「南高殿」にあたり、平城宮内でも重要な施設だったことがわかったと言います。

また、2021 年から京都大学大学院人間・環境学研究科客員教授として学生を指導。若い学生との交流は面白いと話されていました。

最近、会議の連続なのでサッカーでリフレッシュをし、休日には瓦の研究をしているそうです。

さらに、奈文研ボランティア懇談会ではリーダーの役割も担っています。平城宮跡解説ボランティアと NPO 平城宮跡一体化の課題がありますが、NPO 平城宮跡サポートネットワークは、一般の人々と研究者の橋渡し役として、平城宮跡に親しみを持ってもらえるように、活動を続けていただきたいと明快な考えを披露されました。

(編集部)

平城宮跡楽しむ”人たち

NPO 平城宮跡は 9 月 27 日「都跡ふれあいまつり」で奈良時代のボードゲーム「かりうち」対戦コーナーを開設しました。

当日は、暑さもやわらぎ小学生を中心に 61 人が訪れ、中には次々に対戦相手を変え長時間の人も。ルールを知っているという人も増え、11 月に平城宮跡で行われる「かりうち大会」への出場を表明する親子もあり、ゲームの普及が進んでいるのを実感した一日でした。

(文化・ガイド部会)



「都跡ふれあいまつり」かりうち対戦コーナー

平城宮跡歴史公園ガイドの会員募集

<募集内容>

いざない館・第一次大極殿院復原事業情報館・大極門・東楼の定点ガイド、および、いざない館を起点に約 2 km のツアーガイドを募集します。

活動日：原則、月曜日を除く毎日。10 時～15 時の月 2 日以内。

申込：NPO 事務所へ氏名・住所・電話を 11 月 30 日迄。説明会：12 月 13 日（土）14 時～いざない館での参加が必須となります。

❖新規会員の募集<活動支援/入会のお申し込み>

❖個人会員が支援/活動 年会費 3,000 円

❖法人会員が支援/活動 年会費 10,000 円

◆お申込み： ☎ & FAX 0742-34-7713

編集後記

季節は巡り、厳しかった夏もようやく終わりを告げました。奈良では正倉院展が始まり、平城宮跡の木々も美しく色づいて、まさに秋本番です。短い秋をぜひ平城宮跡でお楽しみください。

(Y.S)